

### 1. 大阪ヒルトンプラザのルイヴィトンのリペアサービスは納得

10月にオープンしたヒルトンプラザウエストはヴィトン、フェラガモ、コールハン等、ラグジュアリーブランドが集まり、梅田エリアの商圈は西へと拡大しております。このウエストで一際、目を引くのがヴィトンのリペアコーナーです、メゾネットスタイルの2Fの通路に面し、ガラス張りの工房は修理の商品や、部品が置かれ、かっこいい熟練の職人が黙々と修理している姿をながめられます。それだけでヴィトンの信頼、安心、伝統を感じてしまいます。私はヴィトンが好きではないですが思わず納得の仕掛けでした。このガラス張りの工房は今や時代の流れでリペアに限らずオーダーのファッション、靴、バック、ジュエリー等、工房つき店舗は益々増えそうです。

### 2. 第一回 AFF(アジアファッション連合会)のパネラーとして参加して感じたこと

昨年、北東アジアの発展的コラボレーションを目的として日本、中国、韓国の3カ国で発足したAFFの第一回大会が11月にソウルで開催されました。3カ国協同で研究した色彩の研究発表と各国のファッション市場動向の報告があり、私が日本の状況を報告させていただきました。中国の報告ではあまりに広い国土の為、北京、大連、上海などファッショントレンドがそれぞれ変化し、商品化するにあたっての困難がテーマでした。韓国はワールドカップ以降の急速な景況悪化で内需は暫く回復しないかなり悲観的な話が主でした。中国では韓流のカジュアルブランドが好調ですが韓国国内はかなり冷え込んでいるようです。私のスピーチは流通の現状と変化、その中での勝ち組みをコロモのストリート情報とショップの写真を使い報告しましたが、皆さんが一番関心を持たれたのは日本の元気なショップ、ブランドでした。何人かにレセプションで再韓して詳しく教えて欲しいと要請されたほどでした。日本の小売最前列の動向は各国の注目の的ですが、但し、今の韓国への進出は難しくそうですし、かといって中国の勢いがいつまで続くのかその見極めが日本にとって重要な時代に入ってきたようです。

### 3. テナントが悲鳴をあげている PICASSO347(渋谷)の構造的欠陥

旧、東急のアルマーニやトラスコンチの跡地にユニマットが開発した高感度都市型 SC (PICASSO347)はエントランスのトゥモローランドとカッシーナを除く上層階のテナントから回遊性の問題で悲鳴があがっています。問題は2F行き、と3F行きエスカが2機あり、まずお客はどちらに乗るか迷います。さらに3Fから2F、2Fから1Fへはエスカで降りられなく、わかりにくい階段でしか降りられません。きわめてお客にとって不親切極まりなく、回遊できない導線です。従って楽しくない施設です。オープン当初からテナントはあまりの回遊性の悪さに何とか店頭で声がけしたり、パンフを配ったり必死で自店のアピールに務めています。3F行きのエスカに乗ったお客はまず2Fへは寄りませんし、2F行きのエスカに乗ったお客は3Fには寄りません。動員力がある2Fのリトルニューヨークは比較的順調のようですが大半のテナントは散々のスタートです。小売とお客さま気持ちや行動パターンがわからない

建築デザイナーを使ったユニマットの責任は重大です。リテールビジネスに関わる方は失敗事例の施設に多くのヒントがあるわけで是非見ておくべきでしょう。

#### 4. 何故か気分が重くなるバーニーズ銀座店の課題

10月オープンしたバーニーズ銀座店の評判があまりよくありません。買い物客の意見を何人か聞いたところ問題は2つの点に集中しておりました。

① 旬なブランドがいっぱいあるけれどブランド毎に商品がラック1本か2本しかなく選びようがない、いろいろあるけど結果、買う物がない。

② 店内の雰囲気重くて暗い、楽しくない。

と以上の意見が大半でした。私も全く同感で、NY、や LA のバーニーズのラグジャリーだけどカジュアルで明るく楽しい、そしてビジュアルのイメージを最も大切にしているコンセプトがここには生かされおりません。同店を手がけた建築家ジェフリー・ハッチソンはニーマンマーカスも一時、起用しようとした所、あまりにもお客の視点で考えないデザイナーで即、キャンセルしたそうです。ですからNYやLAの建築家達は何故、日本のバーニーズが米国のバーニーズを実際手がけた事のないジェフリーを採用したのか話題になっているそうです。MDの変更は可能ですが施設の構造の変更は容易ではありません。六本木ヒルズや難波パークスで採用し、失敗したジョン・ジャーディーも同様です。

これは商業施設を作る側の問題です。ここに消費者視点、女性視点で物を見られる、考えられる人がいないのが一番の問題です。PICASSO347にしてもバーニーズにしてもずいぶん無駄な投資をしたものです。いずれ根本的な改装をせざるを得ないでしょうから。

#### 5. 日本製が無くなる

あるプレタ婦人服の社長さんによると、主力工場がこのままではどんどん廃業し、国内では高品質な婦人服をつくれなくなるそうだ。

高品質製品を扱うアパレルが集まって工場の操業を保証しようと、会合が持たれているそうだが、きめ細かな発注体制と工賃の値上げしか対策はないそうだ。

国内縫製と言っても「研修生」という外国人労働者に頼っている実態を見ると、もう国内縫製業は壊滅寸前といえよう。素材もまた、国内では同質化をさけられず、輸入生地がふえている。

05年度に実施する中小繊維製造事業者自立事業の最終案が決まったが、こうしたアパレルと縫製工場のコラボレーションに助成して、百貨店への適品供給力確保に動くべきではないだろうか。